

Wireless

10月17日開催

# 最新ワイヤレス機器の動向と 開発に不可欠な実践技術

## 市場を牽引するワイヤレス技術の 開発のポイントを提示

ワイヤレス機器は、高速化/高機能化に伴って、開発技術が高度になっています。開発者はもちろん製品企画者も、きっちりと業界動向と開発技術を押さえておかなければなりません。例えば、新しいアンテナ技術「MIMO」が注目を集めています。無線LANに加えて、2009～2010年にサービス開始が予定されているモバイルWiMAX、PHS CORE(次世代PHS)、LTEにもMIMOを使うことが検討されています。しかし、アンテナ素子を複数本使い、それぞれの距離をできるだけ離す必要があり、技術的な問題を解決しなければなりません。また、そのようなトナカイの角のようなアンテナを搭載した移動端末が、使い勝手やデザイン的にユーザーに受け入れられるかも考えなければなりません。こうした技術面以外の観点も含めて、機器に実装する際は課題が山積しています。

また、モバイルWiMAXでは、携帯端末に利用する送信用ハイパワー・アンプ(HPA)の電力付加効率(PAE)が著しく低いこと、歪特性が悪いことなどが問題になっています。例えば携帯電話機向けHPAでは、W-CDMA方式で40～45%、GSM方式では50～55%程度のPAEが確保されていますが、モバイルWiMAX向けでは現段階でわずかに10～20%にとどまります。人体通信についてはすでに実用化に向けた開発が進んでいますが、規格策定と高速伝送技術の開発が課題になっています。

本セミナーでは、数年後に実用化すると見られているソフトウェア無線/コグニティブ無線もあわせて、最新動向と業界が抱える課題、技術的に難しいところ/その対策について解説します。

開催日	2008年10月17日(金) 10:00～17:00(開場9:30) 予定
会場	秋葉原・UDXカンファレンス (東京都千代田区)
受講料	早期割引価格: 39,000円(税込) <b>10/9(木)まで</b> 一般価格: 43,000円(税込)

◇受講料には「日経エレクトロニクス(1年・27冊)」の購読が含まれます。現在ご購読中の方は、購読期間を1年間延長させていただきます。

### プログラム内容(概要)

高速通信サービスを支える  
MIMOのマルチアンテナ技術

モバイルWiMAXに必須の  
高効率アンプ技術

新しい応用を切り開く  
近距離ワイヤレス通信  
人体通信の基本技術と開発手法

ソフトウェア/コグニティブ無線の  
最新動向と課題・対策



### 講師

根日屋 英之氏

アンプレット 代表取締役社長  
東京電機大学工学部電子工学科 講師  
横須賀リサーチパーク 情報通信技術研修 講師



※ 満席になり次第、申込受付を締め切らせていただきますので、お早めにお申し込みください。※ プログラムは変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

受講のお申し込み、  
詳しいプログラム情報は、

<http://techon.jp/NE/academy/>